



# 第五四回秋田県消防操法大会

## ポンプ車は鹿角市消防団



題 字  
初代会長 松野 盛吉  
定 価 1部 48円  
(購読料は年会費を含む)

発行人  
〒010-0951  
秋田市山王四丁目1番2号  
秋田地方総合庁舎内  
秋田県消防協会  
会長 中田 潤  
電話 018-867-7320  
FAX 018-863-5910  
<http://www.shoubou-akita.or.jp>  
E-mail:ask@shoubou-akita.or.jp

印 刷  
〒010-0951  
秋田市山王7丁目5-29  
株式会社 松原印刷社  
電話 018-862-8760  
<http://www.matsubarainsatsu.co.jp>

第五四回秋田県消防操法大会は九月二日(土)、秋田県消防学校放水訓練場(由利本荘市岩城)において行われました。

秋田市消防団 山内隆一副団長の総指揮により選手が入場、引き続き開会式が行われ、前回大会の優勝団から優勝旗が返還された後、堀井啓一秋田県副知事並びに中田潤 秋田県消防協会長が主催者のあいさつを述べました。

また、多数のご来賓を代表して、秋田県議会議長 鶴田有司様からご祝辞をいただきました。

鈴木嘉司憲 秋田県消防学校長から審査長指示があり、鹿角支部小坂町消防団 亀田憲人班長が選手宣誓を行いました。

県内九支部の予選を勝ち抜いたポンプ車操法の部に七分団、小型ポンプ操法の部に九分団、また、軽可搬ポンプ操法の部には三隊が出場し、

日ごろの訓練の成果を競いました。

午前中に行われた、ポンプ車操法の部では、鹿角市消防団第五分団が、二位に大差をつけ前回大会に引き続き優勝しました。

また、午後から行われた小型ポンプ操法の部においても前回大会の覇者、美郷町消防団第二分団が優勝に輝きました。

軽可搬ポンプ操法の部では、昨年の覇者大仙市女性消防隊の成績を上回った、潟上市女性消防隊が優勝を勝ち取りました。

競技の結果(優秀選手賞を含む)は別記のとおりとなっております。



平成二十九年 全国統一防火標語

### 火の用心 ことばを形に 習慣に

平成二十九年秋の火災予防運動

十一月五日(日)～十一月二二日(土)



上段右から堀井副知事・中田消防協会長、下段右から鶴田県議会議長・土田総合防災課長・鈴木消防学校長

# 競技審査の講評

◎大会審査班長

秋田県消防学校 榊田 和則

## ■総合

スピード等確実にレベルアップしているが、ホースラインの蛇行やノズルの操作要領不適、規定外圧力送水が複数隊あり、さらなる訓練が必要であると感じた。

## ■ポンプ車操法の部

ホースの展張、延長動作が雑で、その結果ホースラインが蛇行している隊が目立った。規定外圧力送水も複数隊あった。

来年は全国大会が行われるので、一層訓練に励み、レベルアップしてほしい。

## ■小型ポンプ操法の部

全体的に昨年度よりタイムが速くなっているが、ポンプ車同様ホースラインの蛇行が目立った。

ホースラインが綺麗な隊は、タイムも速いので、訓練に励んでほしい。

## ■軽可搬ポンプ操法の部

今年度から男性と同じ標的となったが、すべて有効注水で標的を倒した。

一部に不確実な動作が見受けられた。確実な動作に加え、スピードアップを目標に訓練してもらいたい。

## 第54回秋田県消防操法大会成績表

### 【小型ポンプ操法の部】

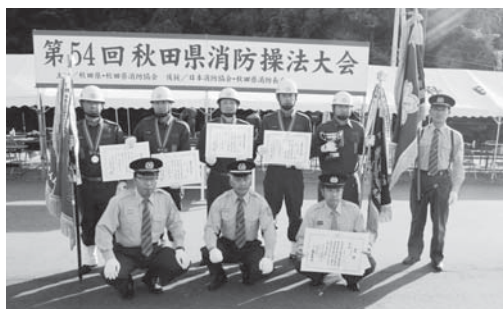
順位	出場団名	タイム(秒)	総得点(点)
優勝	美郷町消防団第2分団	42.52	88.5
第2位	八峰町消防団第5分団	44.41	83.0
第3位	秋田市消防団飯島分団	44.09	82.0
優秀賞	横手市十文字消防団第3分団	42.19	81.5
	小坂町消防団第4分団	42.94	81.0
	東成瀬村消防団第3分団	45.63	74.5
	由利本荘市消防団鳥海支団第7分団	43.79	74.0
	潟上市消防団飯田川支団第5分団	42.35	73.0
	大館市消防団第9方面隊	44.92	52.0



美郷町消防団第2分団

### 【ポンプ車操法の部】

順位	出場団名	タイム(秒)		総得点(点)
		第1線	第2線	
優勝	鹿角市消防団第5分団	53.60	63.78	180.0
第2位	八峰町消防団第1分団	56.24	65.42	161.5
第3位	大潟村消防団第3分団	55.88	64.29	158.5
優秀賞	秋田市消防団城東分団	59.48	66.66	156.5
	にかほ市消防団第3分団	54.67	67.99	149.5
	横手市十文字消防団第3分団	57.61	71.04	148.0
	大館市消防団第3方面隊	63.93	79.77	126.0



鹿角市消防団第5分団

### 【軽可搬ポンプ操法の部】

順位	出場隊名	タイム(秒)	総得点(点)
優勝	潟上市女性消防隊	58.72	84.0
	大仙市女性消防隊	63.87	82.5
	横手市山内女性消防隊	64.72	75.0



潟上市女性消防隊

### 【優秀選手賞】

区分	小型ポンプ操法		ポンプ車操法		軽可搬ポンプ操法	
	出場団名	氏名	出場団名	氏名	出場隊名	氏名
指揮者	美郷町消防団第2分団	佐藤 慎	鹿角市消防団第5分団	関 清考	潟上市女性消防隊	伊藤由香里
1番員	横手市十文字消防団第3分団	泉川 祐紀	鹿角市消防団第5分団	柏木 義隆	潟上市女性消防隊	小野 千歳
2番員	八峰町消防団第5分団	薩摩 晃大	鹿角市消防団第5分団	高杉 正夫	大仙市女性消防隊	相馬 静華
3番員	美郷町消防団第2分団	出茂 彰真	鹿角市消防団第5分団	安保 崇司	大仙市女性消防隊	伊藤 優子
4番員			にかほ市消防団第3分団	松田 芳洋	潟上市女性消防隊	安田さおり



選手答辞



表彰



横手市大森消防団第7分団



能代市消防団能代第12分団

本大会では初めてとなる、「規律訓練」の披露を行いました。

### 規律訓練披露

### 優秀選手の紹介

■小型ポンプ操法

指揮者 佐藤 慎



一番員 泉川 祐紀



二番員 薩摩 晃大



三番員 出茂 彰真



■ポンプ車操法

指揮者 関 清考



一番員 柏木 義隆



二番員 高杉 正夫



三番員 安保 崇司



四番員 松田 芳洋



■軽可搬ポンプ操法

指揮者 伊藤由香里



一番員 小野 千歳



二番員 相馬 静華



三番員 伊藤 優子



四番員 安田さおり



### 全国消防殉職者慰霊祭

(公財)日本消防協会

第三六回全国消防殉職者慰霊祭は、九月一四日(木)午前一〇時から日本消防会館ニッショーホール(東京都港区虎ノ門)で行われ、秋本敏文日本消防協会長の式辞に続き、内閣総理大臣(代理)、野田総務大臣らが追悼のことばを述べられました。全国の殉職者数は、新たに合祀された一五柱を加え五、七五一柱となりました。



ご遺族と中田会長

安 倍 強	大 友 孫右工門	工 藤 清 治	殉職者氏名	遺族氏名
安 倍 久仁夫	大 友 喜由美	工 藤 延 子		工 藤 清 一

■本県から出席したご遺族



御霊の奉納



秋 田 県  
消防学校

初任教育第七一期修了式

六一名修了第一線での活躍を期待

秋田県消防学校第七一期初任教育の修了式が九月一五日(金)、同校の屋内訓練場で修了生のご家族やご来賓約一六〇名が出席して行われました。六一名の修了生は、六ヶ月間の厳しい訓練を乗り越え、それぞれの所属消防本部に着任し、消防士として活動することになります。

修了式は、鈴木学校長が修了生一人ひとりに修了証書を、また、成績優秀者に表彰状を授与した後、来賓祝辞と続き、修了生が答辞を述べ、最後に校歌を斉唱して終えました。

表彰状授与

優 秀 賞 (四名)

- 大館市消防本部 安部 慎也
- 横手市消防本部 佐藤 梓
- 能代山本広域市町村圏組合消防本部 戸松 恒希
- 大曲仙北広域市町村圏組合消防本部 村田 輝昭

功 勞 賞 (五名)

- 北秋田市消防本部 齊藤 卓弥
- 秋田市消防本部 進藤 陽祐
- 湯沢雄勝広域市町村圏組合消防本部 佐々木俊仁
- 秋田市消防本部 福田 公哉
- 能代山本広域市町村圏組合消防本部 今野 涼太

学校長式辞 (要約)



秋田県消防学校  
学校長  
鈴木 嘉司憲

これから数多くの厳しく困難な現場が、皆さんの前に立ちはだかることとでしょう。

しかし、脈々と築かれてきた消防精神を胸に、各々が自分の役割をしっかりと果たし、そして、仲間と一致協力して立ち向かうことにより、必ずや乗り越えることができるでしょう。

各消防本部では、皆さんの若い力に大いに期待しています。そして、同様に地域住民の皆様もまた、あなた方に大きな期待を寄せています。

それらの期待に応えるためにも、皆さんが入校の際に宣誓した、人格の陶冶にこれからも努めていただきたいと思えます。

自らが選択した消防人生です。初心を忘れることなく、夢を持ち続け、信念を貫き、勇気を持って職責を果たしてください。

皆さんのこの半年間の努力に、深く敬意を表します。どうか、事故や健康にはくれぐれも留意され、充実した消防人生を歩んでください。皆さんの今後の健闘を心からご祈念申し上げ、式辞といたします。

修了生答辞 (要約)



北秋田市消防本部  
消防士  
齊藤 卓弥

春、夏、秋と季節も移り変わり、いよいよこの消防学校を巣立ち、現場で活躍する時がきました。

近年、地震や異常気象による大雨、土砂災害など各種災害による悲惨なニュースは後を絶ちません。こうした中で、私たちは地域住民の安全安心を守り、困っている人を助けたいという初心と使命感を忘れず、消防業務に尽力して参ります。

この半年間、この消防学校で培ったことを胸に、各地域そして秋田県消防の更なる発展に資することを誓い、答辞といたします。



71期教育  
初任教

半年間を  
振り返って

秋田県消防学校

秋田市消防本部 渡部 健人

この半年、消防職員の基本的なことを訓練・座学により学び、また、教官の教えにより自分の考え方や姿勢などを学ぶことができた。

指摘されることは多々あったが、それも教育だと真摯に受けとめるようになってからは、自分も成長できたと思う。教官には心から感謝している。

秋田市消防本部 澤田 峻

これからの消防人生の基礎を学ぶにはあまりにも短い期間でした。この半年間を終えて、始めてスタートラインに立つことができます。

今までの努力が無駄にならないように気を引き締めて、長い消防人生に臨んでいきたいです。

秋田市消防本部 高橋 蓮

今までの人生の中で一番辛く、厳しく、また充実した半年間でした。入校した当初はカリキュラムを見て、人を助けるためにはこれほどまでに、知識や技術を身に付けなければいけないのかと思いましたが、終わってみると足りないくらいでした。

大館市消防本部 小貫 慧太

この半年間は、訓練に遅れをとらないようにと、食らいついていくのに必死でした。

初任科で学んだことを定着させて、現場で戦力とされるように、今後も頑張っていきたいと思えます。

北秋田市消防本部 齊藤 卓弥

総代として全うできたのは、教官、仲間の助け、支えがあったからです。この半年間は、感謝の気持ち一杯です。毎日が内容の濃い日々であり、自分自身を大きく成長させることができました。

由利本荘市消防本部 尾留川 剣汰

教育期間の中で取得すべき資格も取得でき、安心して所属に帰ることができ良かった。全体を通し、仲間の存在が自分を高め、成長させてもらったので、教官、講師の方々に感謝したい。

横手市消防本部 佐藤 梓

入学当初は、分からないことだらけで不安だったが、凡事徹底の言葉のもと、最後まで努力できたと思える。できることも少しずつ増えていき、成長できたことが嬉しかった。辛いときに声をかけて支えてくれたみんなにはとても感謝している。私にとつて、かけがえのない半年だった。

鹿角広域消防本部 大森依志樹

消防士としての専門的な訓練や座学はとても新鮮で、働いていく上で消防士としての土台を作ることができたと思う。消防学校で学んだ、知識と技術を生かし、所属でも日々努力していきたい。

能代山本広域消防本部 今野 涼太

四月の自分と比べて、基礎的な知識・技術・体力を向上させることができたと思う。また県内の消防本部に仲間ができたことは大きな財産になると思います。今後も、互いに高めあえる良きライバルとして躍進したいと思えます。

湖東地区消防本部 高橋 孝輔

半年間という長いようで短い期間だった。一日一日の中身がとても濃い半年間だった。消防士としての心構え、基本的な技術・体力を学び鍛えることができた。これらを忘れず今後も精進していきたい。

男鹿地区消防本部 橋本 祥緒

最初はすごく不安でしたが、同じ志を持った同期と辛い訓練、時には楽しいひとときを過ごせて充実した半年間でした。また、基礎となる知識・技術を学ぶことができました。現場では、一人の職員として働くため、頑張っていきたいと思えます。

大曲仙北広域消防本部 村田 輝昭

消防学校で沢山の仲間ができたことは一生の財産になると思います。いよいよ消防人生のスタートに立ち、今は喜びと不安が入り交じった気持ちです。感謝の気持ちを忘れず、日々精進していきたいと思います。

大曲仙北広域消防本部 小山田海都

四月に入寮したとき、自分の整容が悪く、初日から教官に注意を受け、正直学校生活が不安になった。しかし、寮生活をしていくうちに同期とも打ち解け、良い環境で訓練できた。簡単な結素すら時間がかかった四月から、今ではできるようになったことも多く、自分で成長したと思えた。

湯沢雄勝広域消防本部 高橋 大貴

この半年間、数え切れないほどの失敗をしたと思います。しかし、その失敗した数だけ、様々なことを得て、また考えさせられた期間でした。その中でも私が一番嬉しく思うのは、同じ消防の道を志す仲間たちに出逢えたことです。

湯沢雄勝広域消防本部 佐々木俊仁

仲間と一緒に訓練を行い、消防職員として大切な協調性、信頼しあうことの重要性を学んだ。七一期そして指導いただいた教官の方々は、一生の財産である。

この半年間を消防人としてのベースとして、これから頑張りたい。

# 第13回 消防団員 意見発表会(二)



新山 武

・横手市文字消防団  
・団員  
・勤続一一年  
・農業

「当地域の基幹産業である農業に従事し、人口減少が進む中でも、人々とのつながりを大切に、公私ともに邁進しています。」

## 「消防団活動から学んだこと」

五年前の五月深夜、消防車のサイレンとともに目が覚め寝室の窓から外をのぞくと真っ赤な炎と煙りが立ち上っていました。消防団員から連絡が入り、近所の家から出火しているとのこと。すぐさま着替えポンプ小屋に向かい、小型ポンプを軽トラに積み込み現場に直行しました。出火した家は老人夫婦の二人暮らしで、私が到着したところにはすでに半焼状態でした。深夜ということもあり、初期消火が遅れたせいか火の勢いは増すばかり。老人夫婦とも連絡が取れないとのこと・・・せめて命だけは助けたいと思いながら懸命の消火活動。しかし、他の消防団の応援もありましたが無常にも家は全

焼、二人は亡くなってしまいました。

今でも、消防団の集まりがあると当時の話が出てきます。今まで感じたことのない火の勢いと熱気、真っ黒い煙と独特の臭い、その光景と二人を亡くしてしまった事実は今でも消えることはなく新入団員へと語りつがれています。

あの火事をきっかけに学んだこと、そしてこれからの消防団のあり方について三点ほど述べたいと思います。

一つ目は、日々の防災意識を継続的に持つことです。「災害は忘れた頃にやってくる」とよく言われますが正にその通りで、火災予防週間や消防訓練以外の時でもどれだけ周りに気を配れるか、小さな異変に気づけるかが肝心だと思います。私は農業で田んぼや水路の見回りなどで、地域の方々で行き会う機会が多い方だと思えます。だからこそ、何気ない日々のあいさつや声掛けを大切に、危険な場所・物がなにか目を光らせています。この積み重ねこそが防災・減災につながると考えています。

二つ目は、消防団の連携をより密にするということです。これは、あの痛ましい火事で痛感したことですが、いざ災害が起きた時一番困るのが消防団員の集まりが悪い、また一人一人に連絡するのに時間がかかる

ということでした。大きな災害になればなるほど人手と連携・団結力が求められます。現在では、横手市の各管内で災害が発生した場合、消防本部から団員に対し災害連絡メールが配信され、現場への迅速な出動ができるようになりました。これをきっかけに我々の消防団では、消防本部からの災害連絡メールをもとに、携帯電話のSNSのグループ機能を利用して、すぐに部長から各団員へと一斉メールを配信し、より細部にわたった招集をかけるようにしています。

三つ目は、消防団の存在意義です。火災や水害、地震への対応は消防団員の最低限の役割だと思えますが、もう一歩足を踏み出し地域の安全・安心、そして活性化に貢献できないかと考えています。現在は少子高齢化、また人口減少の影響で消防団はもちろん、地域全体が縮小傾向にあります。しかし、そんな中でもその波を少しでも緩めるべく、地域の中核として人と人を繋ぐ架け橋であり、頼れる存在でありたいと思います。具体的には、地域のイベントや交流の場には消防団員が積極的に参加また企画・運営に携わること。行政と市民との間に入り、困っていることや不都合があれば情報交換や伝達を行うこと。何気ない会話をきっかけに、防災・減災に繋がることもあると思います。

「三六六年を振り返って」

「まだ消防が！」  
三十数年間、妻と家族に言われ続けてきた言葉です。その背景には、「消防」イコール「酒飲み」という固定観念が地域にあったからだと思います。私も入団するまではそう思



築瀬 保和

・湯沢市消防団  
・分団長  
・勤続三六六年  
・農業

先輩、後輩からの信頼も厚く、今年四月から分団長として活躍。また、民生委員として地域住民の福祉の増進にも努めている。

## 「三六六年を振り返って」

「まだ消防が！」

三十数年間、妻と家族に言われ続けてきた言葉です。その背景には、「消防」イコール「酒飲み」という固定観念が地域にあったからだと思います。私も入団するまではそう思

つていましたし、入団したらやはりそうでした。でも私には、その頃その場がとても新鮮に感じられました。親子ほどの年の差がある人たちが、同じ目標を持って、同じ練習をして、同じ話題で盛り上がる、「へえー、消防ってこんな感じなんだ。」当時私はそう思ったものです。少子高齢化が進む現在の構成からは、とても考えられない幅の広さでした。当時お世話になりました諸先輩方も、大半の方々は今はもうあちらの世界に移り住んでおります。本当にお世話になりありがとうございます。

入団から数年が経ち、私も規律訓練や、小型ポンプ操法に参加するようになり、団員としての自覚をもつようになりました。

記憶は定かではありませんが、最初に小型ポンプ操法の三番員で、出たときのことだったと思います。指揮者の「集まれ」に始まり、諸課程を経て、各団員が定位置につき、私の「よし」で操法が始まったのですが、ポンプの紐を二回引いてもエンジンがかからず、頭の中がパニック状態のまま三回目を引っ張ったら、エンジンがかかったという記憶があります。本番は怖い、一回勝負というのは本当に怖いとつくづく思ったものです。

そんな経験の後、今度は指揮者の立場で大会に出たことです。私たちの班は町の大会ではいつも中位の成績でしたので、私も他の団員もそんなにプレッシャーは感じていませんでした。「エンジンかかって、水が出て、的が倒れればいいよな」それが合言葉のようなものでした。大会が進むにつれ、順位もよめるようになりました。私たちよりもタイムの速いチームが三組くらいいたので「良くても三位入賞だな」なんて、仲間と話しをしていたら、「優勝」という二文字が、なんと私たちの頭の上に降りてきたのです。分団の人たちもびっくりしていましたが、一番びっくりしたのは私たちがメンバーでした。結果、町の代表となり、支部の大会に臨むこととなりました。

分署のかたがたの熱心な指導もあり、「柳の下のだじょう」をまたつかみ取ることができました。支部大会「優勝」です。私の消防人生において、忘れることのできない出来事となりました。

階級が上がるにつれ、今度は、規律訓練の指導者という仕事が回ってくるようになりました。最初は号令の多さに驚き、距離感に戸惑いを持ちながら練習したものです。目標とっていた先輩がいたので、見よう見

まねで練習していた思い出があります。規律訓練に関しては、私たちの分団の団員の資質は高い方だと思っていたため、「俺が失敗しねば大丈夫だ。」その言葉を唱えながら練習と大会に臨みました。そのかいもあつてか、大会では上位に食い込み、仲間たちと美味しい酒を飲んだ記憶があります。

入団してから今日まで、数多くの消火活動もありました。昼火災、深夜火災、夕方の火災、真冬の火災、原野火災、どれをとっても大変な作業ばかりでした。特に冬の消火活動は、想像を絶するものでした。団員の仕事はこれだけではありません。山林での搜索活動や、水防団としての活動もあります。

火災はいつ起こるか分からないものです。そのための備えはいつも心掛けておく必要があります。大会に向けての練習や、飲み会で培った絆を強くしていくことで、万が一の時の行動がスムーズにできると思っています。また、それだけの信頼関係を築いていくことが必要であると思えます。

私は、偶然にも去年湯沢市で作成されました「消防団加入促進PR動画」に参加することができました。「わらび座」の栗城先生のご指導のもと、数日間の練習をして一本の物

語を作ることができました。

また、この作品を通してたくさんのかたがたと知り合えたのは、今思うと本当にラッキーなことでした。打ち上げの席では、思わず「冥土の土産になりました。」と言ってしまいました。

これから先、何年団員として活動できるかは分かりませんが、退団するまでは精一杯頑張っていきたいと思えます。

「まだ消防が！」今年もまたその時期になりました。

ご静聴ありがとうございました。

地域の防災、災害対策に貢献!



猿田興業株式会社

秋田市山王六丁目1番24号 TEL 018 (863) 1551代  
山王セントラルビル7F FAX 018 (824) 3651

支部情報アラカルト

「五城目消防団 火災防衛訓練を実施」

男鹿潟上秋南支部の五城目町消防団は、八月二〇日(日)、二七日(日)、九月一〇日(日)に、五城目町消防本部敷地内において、火災防衛訓練を実施しました。

今回の訓練は、消防資器材を有効活用し、火災防衛技術の充実強化及び消防団員、署員の連携及び団結を強固にすることを目的に行われました。



五城目町消防団一三カ分団を三班編成に分けて、数日かけて二巡ずつの合計六回実施し、基本操作を繰り返し想定訓練と、敷地内にある消火栓、防火水槽について、出動した消防本部ポンプ車への中継送水及び二又分水器を使用した放水態勢

の確立、また、昨年各分団に配備したトランシーバーも活用し、現場での通信訓練を実施しました。



管内は、火災件数も少なく、団員の減少により火災現場出動経験の少ない団員もいることから、今後も継続的に訓練を実施し、地域の安心安全に貢献していきます。

(情報提供 男鹿潟上南秋支部)

火災の発生状況 (速報値)

(秋田県総合防災課調べ)

	平成29年		平成28年			同期比較	
	9月	累計	9月	累計	年計	9月	累計
建 物	9	130	11	149	191	- 2	-19
林 野	0	19	0	32	32	0	-13
車 輛	3	23	0	22	32	3	1
その他	4	46	2	49	56	2	- 3
合 計	16	218	13	252	311	3	-34
死者数	0	17	1	16	22	- 1	1
負傷者数	5	58	3	45	54	2	13

モリタ消防ポンプ 各種消火器  
シバウラポンプ 消防被服一式 消防機器一式

株式会社 能代消防センター  
株式会社 協 立

〒016-0814 能代市能代町字中川原33番地57  
TEL (0185) (52)6494 (52)6361

トーハツ消防ポンプ  
モリタ自動車ポンプ 総合防災設備センター  
消防被服全般 秋田県代理店

株式会社 高 義 商 会

(営業種目) トーハツ小型動力ポンプ  
モリタ自動車ポンプ  
ジェットホース  
消防被服全般  
火災報知器各種  
消火器各種



〒012-0105 本社 湯沢市川連町字万九郎屋布32  
TEL(0183)(42)2125  
〒012-0844 湯沢市田町 TEL(0183)(73)2588

株式会社 夕 力 吉

秋田県横手市寿町1番28号  
TEL (0182) (32)3880  
FAX (0182) (32)0839

(営業種目)

日本機械自動車ポンプ | キンパイホース  
トーハツポンプ | シバウラポンプ  
各種消防機械器具 | 各種消火器  
消防設備保守点検

ホームページ <http://it-yokote.sakura.ne.jp/>  
E-mail [ykttkg@jasmine.ocn.ne.jp](mailto:ykttkg@jasmine.ocn.ne.jp)